

次期「仙台市すこやか子育てプラン」策定にあたり踏まえるべき視点について

仙台市すこやか子育てプラン2020

現行プランの体系 (基本理念－基本目標－施策体系)		
子育てのよ ろこびを 実感で きるま ち  仙 台	子どもの健やかな成長を支える取組みの充実、子どもの安全・安心の確保	(1) 生きる力を育む教育の充実
		(2) 子どもの可能性が広がる体験と活動の場、遊びの環境の充実
		(3)子どもたちが安心して成長できる環境づくり
		(4)子ども・若者の自立等に向けた支援の充実
	妊娠期から出産・子育て期にわたる切れ目のない支援の充実	(1)子どもがすこやかに生まれ育つための保健・医療の充実
		(2)子育て負担軽減と家庭の子育て力向上のための取組み
		(3)教育・保育基盤と幼児教育・保育サービス等の充実
		(4)個別のニーズに応じた子ども・子育て家庭への支援の充実
	地域社会全体で子どもの育ちと子育てを応援していく環境づくり	(1)身近な地域の子育て支援機能の充実
		(2)仕事と子育ての両立支援の促進
		(3)地域をあげて子ども・子育てを応援していく機運の醸成

こども基本法

第三条より    こども施策の基本理念
(1)全てのこどもについて、個人として尊重され、その基本的人権が保障されるとともに、差別的扱いを受けることがないようにすること
(2)全てのこどもについて、適切に養育されること、その生活を保障されること、愛され保護されること、その健やかな成長及び発達並びにその自立が図られることその他の福祉に係る権利が等しく保証されるとともに、教育基本法の精神にのっとり教育を受ける権利が等しく与えられること
(3)全てのこどもについて、その年齢及び発達の程度に応じて、事故に直接関係するすべての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されること
(4)全てのこどもについて、その年齢及び発達の程度に応じて、その意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮されること。
(5)こどもの養育については、家庭を基本として行われ、父母その他の保護者が第一義的責任を有するとの認識の元、これらの者に対してこどもの養育に関し十分な支援を行うとともに、家庭での養育が困難なこどもには出来る限り家庭と同様の養育環境を確保することにより、こどもが心身ともに健やかに育成されるように
(6)家庭や子育てに夢を持ち、子育てに伴う喜びを実感できる社会環境を整備すること。

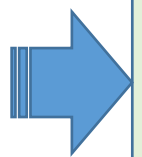


こども大綱

こども施策に関する基本的な方針	キーワード
(1)こども・若者を権利の主体として認識し、その多様な人格・個性を尊重し、権利を保障し、こども・若者の今とこれからの最善の利益を図る	・児童の権利(周知・保障) ・多様な価値観の尊重 ・ジェンダーの視点
(2)こどもや若者、子育て当事者の視点を尊重し、その意見を聞き、対話しながら、ともに進めていく	・意見を表明しやすい環境づくり ・貧困、いじめ、虐待、障害等困難な状況の子どもの意見をくみ取る配慮 ・意見の反映、フィードバック ・社会参画の態度を育む
(3)こどもや若者、子育て当事者のライフステージにおいて切れ目なく対応し、十分に支援する	・教育、保育、保健、医療、療育、福祉の切れ目ない支援 ・経済的支援、両立支援 ・子育て当事者を支えるネットワーク
(4)良好な成育環境を確保し、貧困と格差の解消を図り、全てのこども・若者が幸せな状態で成長できるようにする	・多くの居場所 ・多様な学びや体験活動、外遊びの機会 ・困難な状況にある子どもを受け止める支援 ・子どもに携わる関係者の職場環境等改善
(5)若い世代の生活の基盤の安定を図るとともに、多様な価値観・考え方を大前提として若い世代の視点に立って結婚、子育てに関する希望の形成と実現を阻む隘路の打破に取り組む	・仕事とライフイベントの両立 ・プライベートとの両立 ・性と生殖に関する健康と権利の発信 ・結婚や出産に対する支援等
(6)施策の総合性を確保するとともに、関係省庁、地方公共団体、民間団体等との連携を重視する	・地域の実情に応じたこども計画推進の支援 ・子ども・子育て支援団体の共助を支える

こども大綱における数値目標

- ・「こどもまんなか社会の実現に向かっている」と思う人の割合
- ・「生活に満足している」と思うこどもの割合
- ・「今の自分が好きだ」と思うこども・若者の割合(自己肯定感の高さ)
- ・社会的スキルを身に着けているこどもの割合
- ・「自分には自分らしさというものがある」と思うこども・若者の割合
- ・「どこかに助けてくれる人がある」と思うこども・若者の割合
- ・「社会生活や日常生活を円滑に送ることができている」と思うこども・若者の割合
- ・「こども政策に関して自身の意見が聴いてもらえている」と思う子ども・若者の割合
- ・「自分の将来について明るい希望がある」と思うこども・若者の割合
- ・「自国の将来は明るい」と思うこども・若者の割合
- ・「結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現に向かっている」と思う人の割合



こども基本法の施行  
後5年を目途として  
実態把握、評価、こ  
ども大綱の見直し



こども大綱等を踏まえた 次期プランの方向性における5つの視点

	子ども・子育て会議委員グループインタビューからの意見 (一部抜粋・要約)	子ども・子育て支援団体等ヒアリングからの意見 (一部抜粋・要約)	各種アンケート調査等からの意見
こどもと若者の 権利の保障と意見の尊重、その 最善の利益を図る視点 1	<ul style="list-style-type: none"><li>・「意見を言える子」を育てる（幼児期からの積み上げ）</li><li>・意見を言っても否定されない、言ったら出来た＆誰かが助けてくれたという成功体験を積ませる</li><li>・家庭だけでなく、学校、児童館、施設でも、自分の考えを率直に言える環境を提供することが必要</li><li>・嫌なときは嫌だと言っていという自己決定の権利の教育</li><li>・一時保護所などで行っているアドボケイト事業の拡充</li><li>・ヤングケアラー等、当事者の声をどう吸い上げるか</li><li>・子どもの意見を取り入れられたことを見える形で示す</li><li>・インクルーシブ社会(属性によって区別されたり排除されたりすることがない社会)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・子どもにとっての“良かれ”とは何かを考える視点</li><li>・目の前にいる子どもは一体どんな権利が剥奪、または保証されていないのかという見方ができること</li><li>・意見を言える子どもが育つ環境を作るためには、子どもから意見を言ってもらえるような大人になることが大切</li><li>・子どもの話を聞く、独立的な第三者の意義は大きい</li><li>・アセスメントデータを基にしたAIやICTを活用は虐待予防に有効</li><li>・虐待を受けた子どもには、大人に不信感を持つ前に低年齢からのかかわりが重要</li><li>・社会的養護下に入る前段階ですべての子どもがアドボカシーを知り、利用できること</li></ul>	
ライフステージに 応じた切れ目のない支援と社会 全体で子育てを支える視点 2	<ul style="list-style-type: none"><li>・被害者・加害者にならないための、SNS等の利用に関する教育</li><li>・児童館や地域と学校とのつながり強化</li><li>・子どもの医療について、親が情報を入手し辛い</li><li>・3歳7か月健診と就学時健診の間が空白となる</li><li>・単発的な子育て応援ではなく、生まれてから成人するまでの長期的な支援が必要</li><li>・子育て支援をワンストップで提供する拠点があるとよい</li><li>・“保護者支援”というより“家族支援”が求められている</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・親が「助けて」と言える社会とのつながりがあること</li><li>・支援の必要な家庭への見守りをもう少し続けたいと思っても、終結せざるを得ない状況がある</li><li>・発達相談や支援に早期につながる仕組み</li><li>・ネットやSNSの情報の中で子育ての不安を抱えている</li><li>・子どもと多くの時間を関わる学校との連携</li><li>・高校から大学、大学から就職といった、所属する枠組みが変わるときに大きなリスクがある</li><li>・学校と会社、社会をつなぐ、就職の前後の「のりしろ」の仕組みが必要</li><li>・父親も孤立や誰かとの繋がりといった悩みを持っている</li></ul>	
安全で安心な居場所と多様な 体験機会が得られ、だれ一人取り残さない視点 3	<ul style="list-style-type: none"><li>・不登校の子どもに多様な居場所を作るサポート</li><li>・子どもが“体験する”機会が減少している</li><li>・発達段階に合わせ、子どもが安全に思い切り体を動かせる場所がない</li><li>・児童館の段階的な環境向上、新しいコンテンツの創出</li><li>・子どもに関わる大人の生活・職場環境等の充実も必要</li><li>・地域における発達障害等の理解促進、支援体制づくり</li><li>・LGBTQや障害のある方など、多様な意見を捉える工夫</li><li>・社会的養護の子どもたちに大人が関わる仕掛けづくり、保護者が相談できる窓口づくり</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・居場所は場所だけでなく人との繋がりも居場所にもなる</li><li>・“普通じゃない場所”へ行くことへの抵抗感が強い</li><li>・「ヤングケアラー」ということを知っている大人と、出会えることが大事</li><li>・ひきこもりとなっている人たちには、「社会の入り口」となるような場所が大切だ</li><li>・学校や家ではない「第三の場所」が地域に必要</li><li>・社会が子どもたちに経験（愛着形成や人への信頼、あきらめない力、意欲など）の機会を提供することが必要</li><li>・赤ちゃんとふれあう機会がないまま親になる人が多い</li><li>・保育士が子どもとじっくり関わる余裕がない。それは、</li></ul>	
多様な価値観の尊重と、仕事と 家庭の両立を支援する視点 4	<ul style="list-style-type: none"><li>・親を含め、子どもに関わる大人自身の生活環境・職場環境が整っていることも大切</li><li>・多様な働き方を実現するには、企業の人事の増員が必要</li><li>・男性の育休取得推進、具体的な企業への働きかけ</li><li>・DV加害者がどのように問題を抱えてしまったのかという視点を持ちながらの支援</li><li>・不妊治療の保険適用拡充等、産みたい人の選択肢の増加</li><li>・「子育ては大変だ」というイメージが少子化要因の一つ</li><li>・子育てに対する社会全体の理解が進む啓発の実施</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・企業のCSR活動を支援団体に繋ぐ</li><li>・夫が育休で家にいるのにワンオペ状態だという声も。産前に両親教室などへの参加の有無で意識に大きな差がある</li><li>・小学校低学年の子を預けられる場所がない</li><li>・多様な保育サービスというとき、子どもが置き去りになっていないか。病児・病後児保育は現状として必要だが子どもが病気の時に親が仕事を休める環境が必要</li><li>・今しかない親子の時間のあり方を、社会全体で考えていく必要がある</li></ul>	
多様な主体の活動を支え、多機 関連携のもとで取り組みを推進する視点 5	<ul style="list-style-type: none"><li>・民生委員や町内会の担い手が減り、子ども会も存続危機</li><li>・こども財団による子育て関係団体のネットワーク強化</li><li>・地域における子育てビジョンの共有・協働関係の創出</li><li>・子どもが親以外の大人、他の価値観に触れる場所の創出</li><li>・子ども子育て支援制度の現在までの評価などを長期的に見ていく場や、横のつながりなど全体的な仕組みづくり</li><li>・学校、児童館、児童養護施設等の地域との繋がり強化</li><li>・発達障害等の理解促進、バックアップ体制づくり</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・支援団体間だけでなく、企業を含めた地域全体のネットワークをつくり、重層的な支援に繋げていくこと</li><li>・児童館や民生委員児童委員、学校、区の家庭健康課などが一緒に、地域として家庭を見守ること</li><li>・関係機関・団体の動きや支援内容などを把握でき、情報を相互共有できるネットワークがあるとよい</li><li>・家と学校ではない、第三者の大人が関わることの意義</li><li>・子どもの全成長過程にアプローチでき、地域コミュニティの拠点でもある児童館が小学校区ごとにある</li><li>・子育てコミュニティは、地域活動にもつながっていく</li></ul>	

現在集計中（次回反映）



次期プランの方向性・施策体系の作成

※議論のたたき台として現行プランの施策体系を再掲

<p><b>(1)生きる力を育む教育の充実</b></p> <p>幼児教育の充実 / 豊かな心の育成 / すこやかな体の育成 / 確かな学力の育成</p>
<p><b>(2)子どもの可能性が広がる体験と活動の場、遊びの環境の充実</b></p> <p>社会体験、自然体験など多様な体験・学習機会の充実 / 遊びの環境の充実 / スポーツ・文化に親しむ環境づくり / 子ども・若者の居場所づくり、活動の場の充実</p>
<p><b>(3)子どもたちが安心して成長できる環境づくり</b></p> <p>児童虐待防止対策の充実 / いじめ防止等対策の総合的推進 / 安心・安全な環境の確保</p>
<p><b>(4)子ども・若者の自立等に向けた支援の充実</b></p> <p>不登校・ひきこもりへの支援の充実 / 社会性の向上や就労等に向けた支援の充実 /代替養育を必要とする子供への支援の充実</p>
<p><b>(5)子どもがすこやかに生まれ育つための保健・医療の充実</b></p> <p>母子保健の充実 / 小児医療、学校保健の充実</p>
<p><b>(6)子育て負担軽減と家庭の子育て力向上のための取組み</b></p> <p>子育てに関する不安・負担の軽減 / 子育てに要する経済的負担の軽減 /子育てに関する情報提供・相談支援の充実</p>
<p><b>(7)教育・保育基盤と幼児教育・保育サービス等の充実</b></p> <p>教育・保育基盤の整備 / 多様な保育サービス等の充実 / 保育の質の確保・向上 / 幼児教育の充実（再掲）</p>
<p><b>(8)個別のニーズに応じた子ども・子育て家庭への支援の充実</b></p> <p>子どもの貧困対策の推進 / ひとり親家庭等への支援の充実 / 障害のある子どもなどへの支援の充実</p>
<p><b>(9)身近な地域の子育て支援機能の充実</b></p> <p>多様な担い手による子育て支援ネットワークの強化 / 地域における児童虐待防止の充実（児童虐待防止対策の充実の一部再掲） / 子どもの育ちと子育て家庭を支える人材の育成 / 身近な地域の子育て支援施設等の充実</p>
<p><b>(10)仕事と子育ての両立支援の促進</b></p> <p>仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現に向けた家庭・企業等における取組の推進 / 女性の就労継続・再就職の支援促進 / 男女が共に担う子育ての推進</p>
<p><b>(11)地域をあげて子ども・子育てを応援していく機運の醸成</b></p> <p>子育てを応援していく全市的な機運の醸成 / 子育てを応援していく各種プロジェクトの展開</p>